

学年が1年から2年に変わり学習内容も大きく変化することとなった。その変化というものがこの基礎プログラミングである。1年生の時に学んでいた情報リテラシーは授業内容に悩むことなくスムーズに1年間授業を進めることができた。しかし、基礎プログラミングは全く違うものであった。情報リテラシーでは普段から使用していたOSを使用して、普段と変わらないソフトの使い方を学ぶというものであったが、基礎プログラミングは違うOSを使用し、違うソフトを使用し、さらにプログラムを作成するというこれまでの人生で始めてのことばかりであった。そのため基礎プログラミングを学び始めた頃は無事に単位を取得することはできないだろうと考えていた時もあった。授業内容も大変であったが、最も大変であったのが復習を兼ねて毎回出される課題レポートであった。毎回徐々に難しくなっていく課題は初めての頃は提出するのを諦めたく感じる程のものに感じられた。しかし、嫌だと思いながらも毎回諦めず授業に出席し、毎回課題レポートに取り組むにつれて少しずつ自分の中で変化が起きていることを感じるようになった。難しいのは変わらないが、どのように考えればプログラムが動くかある程度予想ができるようになってきたのであった。この変化にとっても驚かされた。どのように取り組めば良いのかさっぱりわからなかったのが、嫌々ながら取り組み続けたことによって自分の中でしっかりと実力になっていたのであった。このことを実感してから私の基礎プログラミングに取り組む姿勢に変化が起きたように思う。毎回授業や課題レポートに取り組むのは相変わらず大変であったが、苦労した分必ず自分の力になるということに気がついていたのである。このことに気がつくことができたため、これまで諦めずに基礎プログラミングの授業に取り組むことができた。諦めずに取り組んできて本当に良かったと感じている。その理由を述べていきたいと思う。まず基礎プログラミングを通して始めて知ったことが数多くあるということが言える。私達が生活している社会で使用されているシステムがどのような仕組みで作成されているのかなんとかくではあるが理解できるようになった。このことを通して物事をより現実的に考えることができるようになったと思う。これまで自分の利用しているものは自分では全く分からないような仕組みになっていた自分とは全く関係の無いものだと考えていた。そのため自分が理解できるものしか現実的に感じることはできないでいたのであった。しかし、基礎プログラミングの授業を通してそれらのことについて理解を深めるにつれて思っていたよりも自分でも理解できる仕組みで作成されていることを知り、自分と身近なものに感じられるようになり、そのことによって分からないことでも諦めず現実的に考え、取り組む癖がついていた。このことはなかなか体験できることでは無いと思う。本当に真剣に取り組み、理解を深めなければこのような体験をすることはできないであろう。そのためこのように真剣に取り組む機会と

なってくれるため取り組んできて良かったと思うのである。また、最も重要な点は自分の物事に取り組む姿勢や考えを修正する手助けになったという点である。基礎プログラミングに出会う前は、大変そうに感じたものに対してすぐにやる気を無くすという悪い癖があった。この癖はなかなか直すことができないまま大学2年まで続いていた。しかし、基礎プログラミングが始まってからは逃げることはできなかった。それはこの授業が必修であったというのが最初の理由である。必修を落とすわけにはいかないと必死になって取り組んでいたら前期の中場ころには、大変だけれども頑張って良いプログラムを作成しようと自然に考えるようになっていた。それから嫌だと感じたことについてでも逃げずに積極的に取り組む癖がついた。この点が最も基礎プログラミングを続けてきてよかったと感じる点である。この経験はこれからの自分を考えると非常に有意義な経験であったと思う。大学を卒業して働くようになったとき、嫌なことからすぐに逃げてしまう癖が残っていたら私は仕事を続けることはできなかったであろう。これからもっと自分を苦しめる出来事がどんどん待っていると思われるのでこの時期にこのような経験をすることができたということは本当に良かったと実感している。

今まで基礎プログラミングを学んできてどのような影響があったのかまとめてきたが、最後に言いたいことは1年間逃げずに続けてきて本当に良かったということである。来期から基礎プログラミングを学ぶことは無くなるが、この1年間で経験したことを忘れずに今後の大学生活や就職してからも基礎プログラミングを通して学んだ諦めないということをまもり続けたいと思う。